

平成16年度新庁舎における市民利用施設検討委員会 第4回ワークショップの記録

平成16年12月18日（土曜日）

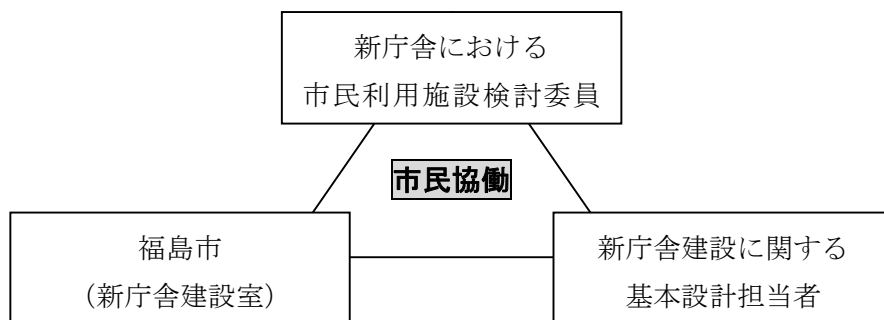
第4回ワークショップ（以下、WSとする）に先立ち、市民利用施設検討委員会では、新庁舎建設室から、新庁舎建設に関する最新情報を聞き、ワークショップで議論している市民利用施設と市民広場について、いろいろな角度からイメージを高める作業を行いました。

平成16年10月23日（土）実施された新庁舎の基本設計を依頼する設計者を選定するために実施した公募型プロポーザルの内容を新庁舎建設室担当者より説明を受けました。



新庁舎建設における第一の課題は「市民協働による開かれた庁舎の具現化」であり、市民に開かれた施設として「市民利用施設」と「市民広場」の位置付けが重要であることを参加委員全員で確認しました。

その開かれた施設としての「市民利用施設」と「市民広場」を考えて行く上で、市民利用施設検討委員会、福島市、新庁舎の基本設計担当者の3者が下図のとおり「市民協働」の概念を共有することが大きなポイントになることも確認しました。



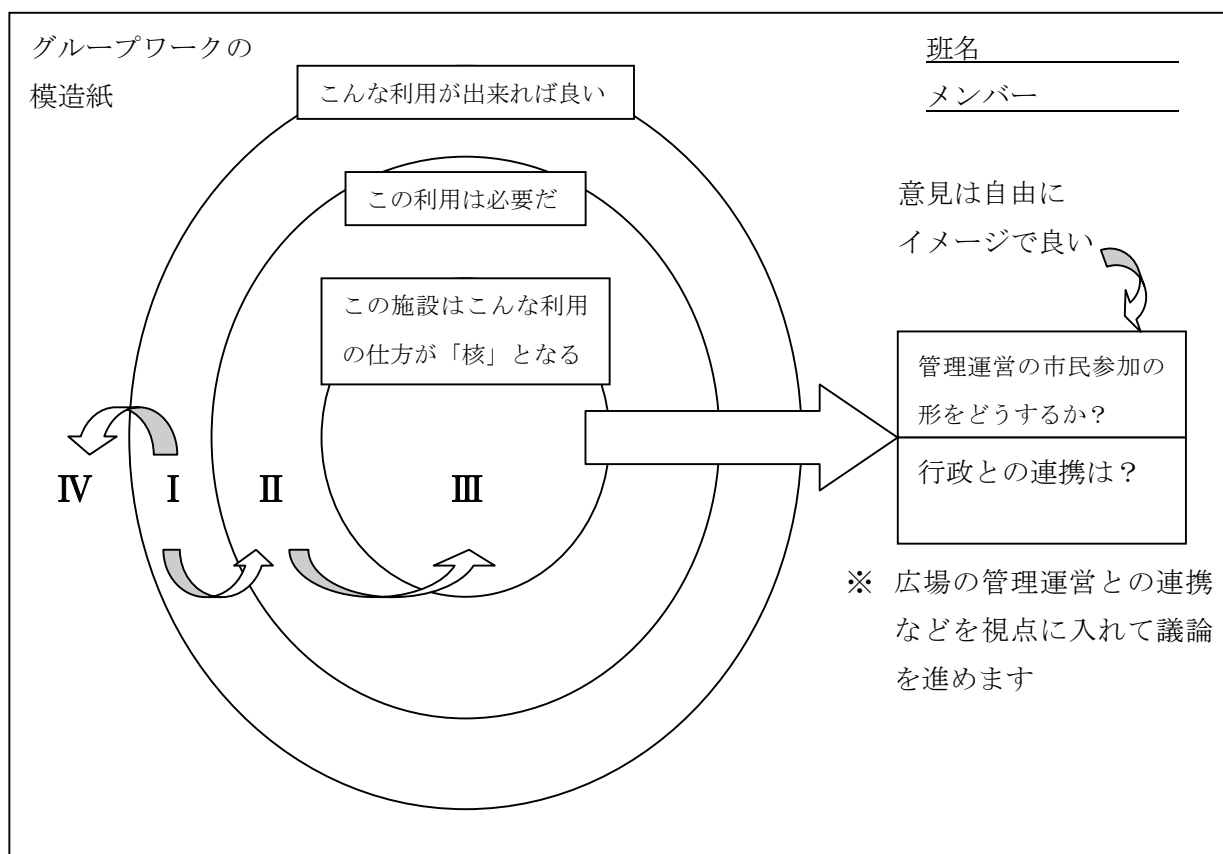
平成16年度第4回ワークショップのテーマは

「市民利用施設の利用の仕方を整理して具体化する」～しぼりこんで、組み合わせる～

1 これまでの議論で整理してきた11項目の市民利用施設の機能（利用のしかた）

- ① 市民の会議室・ホール
- ② 文化団体の展示会
- ③ 休日も利用できる窓口
- ④ 休憩スペース（来庁者の待機場所）
- ⑤ レストラン・カフェテリア機能
- ⑥ 市民参加・協働のスペース
- ⑦ 福島市の情報に関する展示の場所
- ⑧ 市議会との接点の場所（議会の傍聴・見学）
- ⑨ 情報検索の場（観光情報・行政資料・インターネット等）
- ⑩ 情報発信の場
- ⑪ 相談窓口的な機能

この市民利用施設の「利用のしかた」11項目を、下図の曼陀羅（まんだら）集約図の手法によって整理しました。



市民利用施設の「利用のしかた」11項目を図の外円（I）に貼り出し、利用の仕方の重要度を検討して、中心（II）、（III）へ「移動する」、「移動しない」を班内で意見交換をし、市民利用施設の「利用のしかた」のあり方を円の中心にまとめていきました。

加えて、この11の項目以外に必要と思うものを提案し、その重要性、必要性についても時間をかけて議論をしました。





まんだらの中心には何を持ってくるか・・・意見が分かれたり、一致したりで苦労しました。

また、Iの枠内から枠の外(IV)に出すもの(行政側で責任を持って担当してもらうもの)がある場合についても意見を出し合いました。

最後に、市民利用施設の核となる「利用の仕方」を中心に考えて、施設(広場を含めて)の管理運営に市民がどのように関わっていただけるかを議論しました。

2 各班より発表を行った結果、下記のとおり各班ごとに特徴がでましたが、共通する視点としては以下のとおりとなりました。

- (1) 市民利用施設の機能(利用のしかた)の「核」となるものは、「⑥ 市民参加・協働のスペース」としての機能である。
- (2) 次に、情報の受発信に関する機能(利用のしかた)が重要である。
- (3) 相談窓口的な機能(総合窓口)を持つ場所に、行政手続き等に専門的な知識を持つ人を配置すべきだ。
- (4) 休息のスペースであって欲しい。
- (5) 市議会との接点の場所として、市政に関する情報に触れられることが必要。

また、次回(第5回)に詳細な議論を予定している「施設の管理運営」に関しても、入り口のイメージとしての意見が出されました。

- (1) NPOを立ち上げ、施設管理は市で、運営は市民が担当する。
- (2) 運営委員会の立ち上げと事務局の設置(専属スタッフの配置)
- (3) 施設、設備に関しては行政のサポートを受ける
- (4) 各種情報の受発信や施設の警備に関しては市民と行政が連携して行う



第1班：伊藤孝一さん



第2班：田中さんと吉田さん



第3班：小河さん

また、第2班の田中さんと吉田さんから、市民利用施設にこんな機能があったらいいなという寸劇が披露されました。

3 グループ発表後、アドバイザーの先生方から講評をいただきました。

【宇都宮文星短期大学 山口哲子教授の講評】

今日のまとめ作業の中に、たくさん良いヒントがありました。

現在、公的な分野としての各種委員会や審議会などで、専門領域での発言は行われているが、今後、この福島市で生活してきた市民として意見を出し合う「場」として、あらゆる場面でこのスペースが生きてくるのではないかと。市民生活全般にわたって機能していくと思う。

また、この場所がホテルのコンシェルジュ[※]的役割を担う人がいる場所としての提案もありました。

今後、どんどん行政がタッチできる範囲が限られてくることから、様々な経験を積んでアドバイスができる人がいる場所としての機能がもためられてくるのではないのでしょうか。情報を欲しがっている人に関しては、市の担当課へもつなぐことができるし、市民団体や専門的なグループへもつなぐことができる、そんな役割の人がいたらいいですね。“客観的に”を超えて、生活体験を含めた市民の目線で、市民に役立つ情報を収集し、振り分けて提供していける機能は、これまで無かったものであり、市民が使っていけるものになると思います。

市民と行政の係わり方が変わってきています。両者を合わせた形で機能していくとさらに良い方向に変わっていくと思います。発表の中から新しい展開が見えてきましたね。

(※コンシェルジュ:ホテルの接客係としてフロントとは別のカウンターで観光や交通の案内や劇のチケット予約などのサービスを提供する)



【福島大学 山川充夫副学長の講評】



市民協働のスペースを描くのは難しいです。提案のスペースとして、ワークショップ方式で議論ができるスペースの運営をNPOなどがサポートしていけると良いかと思います。

まちづくりに関して市民が主体となって活動しているところはまだ全国的にもあまりないですから、このスペース、市民利用施設から始めた議論をステップアップさせ、市民全体のコンセンサスにするため、シンポジウム等を立ち上げて行くことも新しい形であろうと思います。

市民活動は、陳情型から提案型に変わってきています。自分たちの思いを形にしていく場所、そんな空間作りが大切で、どのようにNPOが関わり行政サポートと連携を取っていくかが課題となっていくでしょう。

次回（第5回）WSでは、曼陀羅集約図を整理し、最終提言書の骨格をつくりあげることとした。